7月は非行問題に取り組む全国強調月間です

7月は「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」です。期間中は、関係機関や諸団体により全国的規模で非行防止・健全育成の取り組みが行われます。地域や家族との触れ合いを大切にして、青少年が非行に走らない社会環境を作りだしましょう。

◎青少年に声かけを

青少年相談所では、青少年の非行防止のため、青少年補導員が、計画的に市内の繁華街、公園、駅周辺などを巡回し、不良行為少年の補導をしたり、有害な看板、ポスター類の撤去活動を実施していますが、最近、中央公園や駅周辺における喫煙が目に付きます。

喫煙している青少年に声をかけると、「働いているからいいんだろう」などと言って、喫煙を止めず反抗してくる少年もいますが、ほとんどは「すみませんでした」という声が返ってきます。

家庭や地域において、青少年の喫煙など不良行為について黙認しないという風潮を高めることが必要です。

◎相談受け付けています

青少年相談所では、幼児から20歳未満の青少年に関する相談を受け付けています。悩みや心配ごとがありましたらお気軽にご相談ください。相談は、来所でも電話でも結構です。専門の相談員が対応し問題解決のための援助をします。秘密は固く守られますので気軽にご利用ください。

啓発ポスター募集します

市、教育委員会では、非行防止啓発活動の一環として、ポスターを募集します。

▽応募資格　①小学生の部＝市内在住の小学5・6年生　②中学生の部＝市内在住の中学生

▽内容　青少年の非行防止に関するもの

▽規格　画用紙四ツ切り（39センチ×54センチ）

▽提出先　青少年相談所へ直接持参

▽締め切り　9月8日（金）

▽発表　広報えびな（予定）

▽表彰　「家庭と地域の教育を考えるつどい」で実施

▽賞　最優秀賞＝小中学生の部から各1点、入賞＝小中学生の部から各7点、応募者全員に記念品

▽その他　①応募作品は未発表のものに限ります

②応募作品の裏面右下に住所、氏名（ふりがな）、電話番号、学校名、学年を明記のこと。作品についてのコメントがあれば併せて記入してください

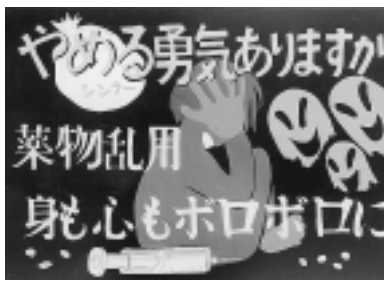
③入賞作品の著作権は市に帰属します

④最優秀作品2点は、非行防止啓発ポスターとして作成し、市内小中学校、公共施設などに掲示します。

▽問い合わせ　同相談所（☎232・1011）。

▽受付時間　午前9時～午後4時30分（土・日・祝日・年末年始を除く）

▽問い合わせ　同相談所（上郷476－2＝中央公民館2階、☎232・1011）。



去年の最優秀作品（中学生の部）

思いつくままに

アリ社会の怠け者

「はたらけど、はたらけど猶わが生活（くらし）…」だれでも知っている石川啄木の短歌です。石川啄木が死んだのは、明治45年（1912年）、26歳でした。短い生涯でしたが、啄木の一生は波瀾万丈で、「はたらけど…」の短歌がつくられた頃は、今の時代と共通していることが多かったのではないかと思います。

働き者といえば、イソップ物語ではありませんが、まずは、アリが思い浮かびます。

キリギリスが、働きもせず、楽しく、優雅な毎日を送っている時に、アリは、ひたすら、巣をつくったり、食料を集めたり、働きづくめです。

ところが、その働き者のアリの中にも、怠け者がいるという話を聞いたことがありました。少し驚きましたが、人間社会も同様でしょうから、あまり驚くことではないかもしれません。話をつづけますと、「アリの社会は、よく働くアリと、普通に働くアリと、働かないアリが、6対3対1の割で構成されている」そうです。さらに「実験的に働かないアリを排除すると、残りのアリは、ちゃんと6対3対1に、再配分される」という結果が生じるということです。

アリ社会の自然のなりゆきと言ってしまえばそれまでですが、人間社会では、叱咤激励されたり、強制されたり、非難されたりされかねません。知識が豊かで、頭と体がよく働くがんばり屋だけの社会だけでは、少々、ゆがんだ社会と言わざるを得ません？

海老名市長　亀井英一

ご家族に介護手当を支給

～申請は7月21日まで～

市では、在宅の重度のねたきり等のお年寄りを介護されている方に、介護手当を支給しています。この制度は、ご家族の日ごろの苦労をねぎらうとともに、ねたきりなどのお年寄りの在宅福祉の増進を図るため設置されたものです。

次の①～④の条件にすべて当てはまる、お年寄りを長期間にわたり常時介護されている方は、お申し出ください。

①平成12年9月15日現在65歳以上になられる方（昭和10年9月16日以前に生まれた方）。

②9月15日までに引き続き6カ月以上市内に居住し、かつ住民基本台帳などに記載されている方。

③介護保険の要介護度4または5の方（平成12年7月1日現在）。

④平成12年7月1日現在、在宅で介護を受け、老人ホームなどに入所していない方。

▷申請方法　「ねたきり老人等介護手当支給申請書」を7月21日（金）までに高齢福祉課に提出してください

▷手当の額　年額6万円

▷支給の決定　支給申請書の提出に基づき、手当の支給の決定または却下の通知をします

▷支給方法　提出された支給申請書に記載の銀行などの口座に、手当を9月末日までに振り込みます

▷問い合わせ　高齢福祉課（内463）。

社会を明るくする運動月間

座間海老名保護区保護司会海老名地区会と更生保護婦人会では、7月の「社会を明るくする運動」月間に、次代を担う少年を非行から守り、非行に陥った少年の立ち直りを助けるため、地域の方々のご理解とご協力の輪が広がりますよう、運動を展開します。

この運動は、法務省が主唱して行われているもので、今年で50回目を迎えます。

期間中、地域掲示板、市内中学校などへポスターを掲示するほか、7月3日（月）には、海老名駅前などで街頭キャンペーンを行います。

また、7月30日（日）には、「ふるさとまつり」会場でキャンペーン活動を行います。

▽問い合わせ　福祉総務課（内441）。

まちかどニュース

第2回海老名の森フェスティバル開催

森遊びを楽しみました

5月28日（日）に、上今泉秋葉台自然緑地で「海老名の森雑木林同好会（田村耕三代表・会員35人）」による、第2回海老名の森フェスティバルが行われました。当日は、会員のみなさんをはじめ、近所の方や、子ども連れの家族などたくさんの人たちでにぎわいました。

会場では、ペンダント作りや、ハンモックに寝そべる子どもたち、ドングリの実でネックレスを作るお母さん方の姿が見られたほか、オカリナや草笛を使った演奏会などが行われ、参加者は、自然を利用した森遊びを楽しんでいました。

「海老名の森雑木林同好会」の活動に興味を持たれた方は、田村さん（☎232・8567）まで連絡を。

海老名むかしばなし

桜井ノブ氏

桜井慶山氏

二人。やむなく親戚の世話で江戸へ出て武家奉公。そこは、有名な勝海舟の家だったらしい。天保十三年（一八四三）二十一歳の時帰村し、伊豆の稲取から友律師を迎え結婚されたが、いくばくもなく師は病没。四年後の弘化四年（一八四七）十一月、二度目の夫法輪師を武州多摩郡上染谷村から迎えられ一子慶山をもうけられたが、嘉永五年（一八五一）に法輪師もまた二十六歳の若さであの世へ。しかしふき氏は度重なる不幸にもめげず、堅忍不抜、幾度も襲った家運衰滅の危機を脱せしめられたのであった。

その一事例は、わが子慶山をして大和村（現市）深見の医師樋田玄斉に就いて医学を修めさせ医業に転向、この業を大ならしむべく後援。孝子慶山また奮闘努力し多くの人命を救い世の信頼を得、ここに漸く家運隆盛に赴くことができたのであった。

ねんねこ唄の核心である歌詞「夜あそびするな、酒のむな、かけごとするな、ひめかうな」の発想について、私は思うのである。当時一・五キロメートルとは離れていない国分字新道に大山街道が新設されたのを契機に、料亭・茶屋が十指あまり、芸者・茶屋女三十有余名を擁すいわば花柳街が出現すると、その遊興におぼれ家運を傾ける者さえあった。賢明なふき氏はその弊害を見逃さなかったのではあるまいか、と。

慶山氏夫人ノブ氏も立派な方で、墓碑に「天資淑順、而慈愛克事、慶山克撫育四子…」とある。改めていうが、四子とは祖母のうた声によって教化された次の方々である。長男昶氏は、座間小学校に明治三十九年九月三十日より二十五カ年勤続、その功により勲八等受章の栄に浴された。次男牽氏は、東京高師卒、小中高の各校勤務、神奈川県女子師範学校教諭を経て県視学歴任、正六位に叙せられ勲六等受章。三男認氏は、平塚市内の各校長を歴任、教え子よりその徳をたたえられ喜寿の記念碑を建立される。退職後神奈川県教育会事務局長。不思議な縁で私は同氏署名入りの「神奈川県教育史」上下二巻を拝受している。昭和五年文部大臣表彰、昭和四十三年神奈川文化賞受賞、正七位に叙せられる。四男功氏は、神奈川県師範卒、横浜市内の各小学校長を歴任。

四人が揃いも揃って、教育界をリードする人物に大成されたことは偉である。また、そうなさしめた根源の子守歌精神による家庭教育は、今の世相にかんがみ大いに鼓吹すべき業蹟ではないだろうか。（池田　武治）

電話で海老名の昔話が聞けます

6／6～7／4　第250話　子どもを助けた河童

7／5～8／4　第251話　二神将の腕

☎233・3838